

丹波小
学校便り



丹波の流れ



発行日

令和6年1月15日

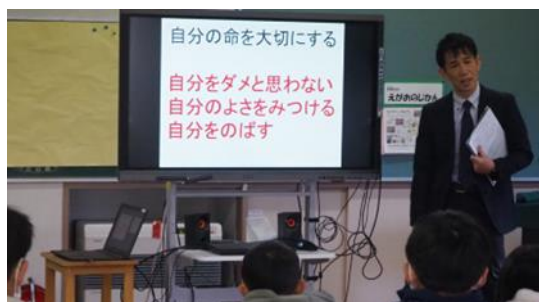
第8号

文責：芹川

今年もどうぞよろしくお願ひいたします。

天災というものは、正月だろうと来るものなのだと改めて自然のむごさと怖さを感じました。元旦に起きた能登半島の震災から2週間が経とうとしています。未だ行方不明者も多く、復旧活動が思うようにいかない状況や追い打ちをかけるかのように雪が降り、人々をこれでもかといわんばかりに苦しめます。学校が始まる時期が近くなると、被災した地域の子どもたちはどのような状況なのだろうと考えるとさらに胸が痛みます。今回、震災に遭われました皆様に心からお見舞い申し上げます。

そのような中、本校は、12日(金)に児童と職員が全員無事で、新学期を迎えることができたことに、心より感謝します。始業式では校長から能登半島の地震のことについて触れると、どの子も顔色を白くしながら聞いていました。今回は「いのちのまつり」という動画を用い、「いのちの大切さ」について児童に話をしました。自分の命は御先祖様からいただいているもので、5代前で32人のご先祖様。10代前になると1024人のご先祖様から受け継がれている。ご先祖様の誰か一人でも欠けると自分は生まれてこなかったという生命の神秘。だから、「命を大切にしなければならない」のです。そして、



「自分の命を大切にするということは、自分をダメと思わない。自分のよさをみつける。自分を伸ばす。そして、友達の命も大切にすること。『大切にすること』ということは人の失敗を笑ったり、馬鹿にしたり、傷つけたりしないということ。地獄言葉をいったりしないということ。」と、児童と会話をしながら確認しました。

子どもですから失敗もします。しかし、生きたくても生きることができなかった人たちがいる現実がある上で、当たり前にあるものではないことを確認し、「いのちのバトン」を次の代につなげていけるよう、大切にしていけることを教えていきたいです。

始業式の中で2年生の代表、尾曲那優さんは、「3学期はかけ算ができるようになりたい」、4年生の代表、初田薫さんは、「帰りたいというマイナスな発言をなくしていきたい」、6年生の絆起さんは、「6年生として残された学校生活、下級生にもっともっと声をかけていきたい」、3人とも立派に自分の思いを伝えることができました。3学期の目標が達成できるよう、職員で支援していこうと思います。



冬の風物詩

お正月の風物詩といえば、「駅伝」があります。今年は100回大会ということで、どのチームも力がさらに入った戦いでした。今年は青山学院大学が2年ぶりの優勝を果たしました。

原監督は全国から生徒を集めてきます。一時期、速い生徒を集めることばかりに意識がいき、「ルールを守らなくても速く走れる生徒」を集めていたそうです。全国の中でも速い生徒、いわばスペシャルが集まっているわけですから本当はすごいチームができるはずでした。しかし、思うような結果は出ませんでした。

原監督は考えを変えました。「ルールを守れる生徒」を優先して取っていくようにしたそうです。ルールといっても「寮に帰ってきたら自分の名札をきちんと変えられる生徒」というレベルです。たかが名札と思うかもしれませんが、「こういう些細なことに気付け、毎日きちんとできる生徒が練習もしっかりとできる、ここぞという時に力を発揮できるんです」と原監督はいいました。この言葉を聞いてとてもうれしくなりました。真面目に努力をした人が報われる、ルールを守れる人、些細なことでも継続する人がいい思いをするということは、見ている人にとって生きる支えになり、心から「おめでとう」といえます。

任された区間、走っている人は1人ですが、いろいろな人の思いが入った襷をかけ、走っています。出場団体それぞれにドラマがあり、毎年、正月の風物詩となっています。

丹波山村の風物詩といえば、「スケート」と「お松ひき」ではないでしょうか？

「スケート」に関しては、小池文夫さんが毎年、スケートリンクをつくってくれています。夜の寒い時間が一番凍るので、

天気や長年の経験を基にスケートリンクにします。

天然のスケートリンクがあるのは全国でももう数が

少なくなっているのではないのでしょうか。とても貴重な経験です。

3学期は、スケートの授業もあるので存分に冬のスポーツを楽しみたいと思います。



「お松ひき」

門松をはらう松送りの祭事。七草粥をお松様にお供えし一家で食べてから、熊野神社前の集積場まで松や正月飾りを運び、修羅と呼ばれる Y 字形の大木の木ゾリの上に積み上げ、正面にはその年の十二支を飾ります。午前中をかけて山車が出来上がると、午後からは修羅に付けられた2本の綱を、はっぴ姿の村人たちが「ヨーイ・ヨーイ」と、威勢よく木遣りの音頭でかけ声を合わせながら道祖神まで引いていきます。

14日、道祖神に積まれたお松様は、1年の無病息災を祈って焼かれ丹波のお正月が終わります。



「修羅」は古墳時代から使われていた運搬具の一種で、ふたまたの大木で作った Y 字体の木ぞりで、それが、まだ生きた道具として使われているのは日本中で、ここ丹波山だけだそうです。

1月15日の小正月には家の入口左右に男女一對の「門入道神」を魔除けのため立てるのが習わしとなっています。(ネット引用)

大谷翔平選手からグローブが届きました

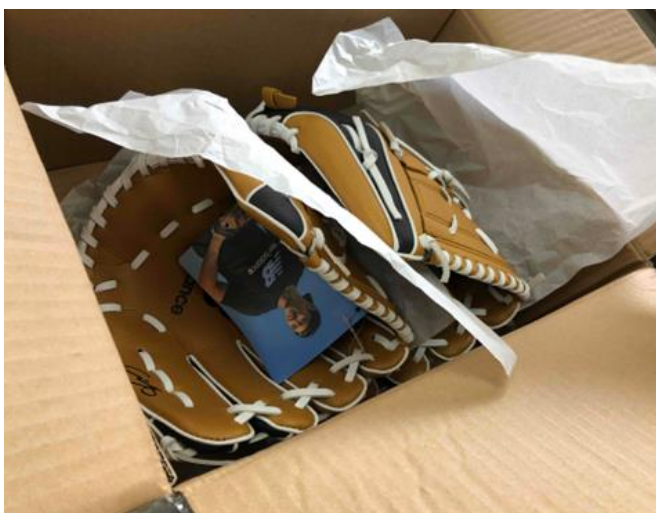


15日(月)にメジャーリーガー大谷翔平選手からプレゼントされたグローブが丹波小学校にも届きました。

WBCの時の背番号であり、お日柄もよい日であった16日に全校へお披露目をしました。

子どもたちからは歓声があがりました。「大谷選手からのプレゼントは何だろう?」という校長の質問を見事当てた絆起くんと、柚芽さん、そして、左利きの隆玄さんに代表でキャッチボールをしてもらいました。全国の学校に3つずつプレゼントしているのは、「キャッチボールは2人。でも、左利きの人もいるだろうから」という配慮で、3つなのだそうです。

早速、昼休み、みんなでグローブを使い、キャッチボールを仲良くしていました。



書初め大会

15日（月）に書初め大会が行われました。
冬休みに家庭でも練習してきたのがわかるほど、上手になっていました。

1年生と2年生は「硬筆」で、3年生以上は「毛筆」です。
書き初めは平安時代の宮中行事が起源で、元日の朝に初めて汲んだ水（若水）で墨をすり、新年の縁起のよい方角（恵方）に向かっ



て祝賀や詩歌を書いていたことに由来するようです。

1月2日に行うのが風習となっており、1年の抱負や目標を書いて字の上達を祈願するのが目的です。そして、その書いたものを「どんど焼き」で燃やし、その炎が高く上がると字が上達するといわれています。



丹波小学校の児童も、集中して、

丁寧に今年の課題に取り組んでいました。大切に使います。

